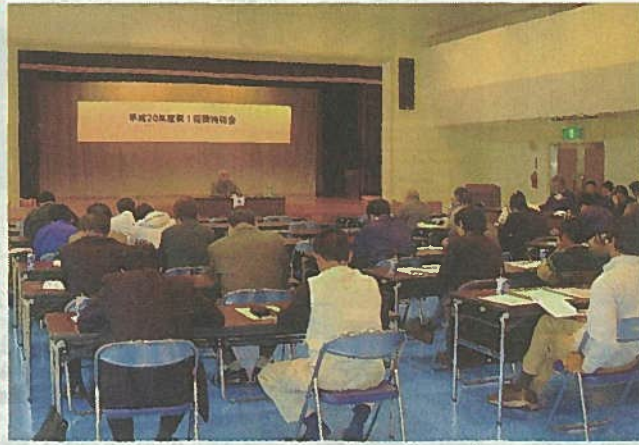


# 来年目標生産量1万トンに大減産

養殖業振興協

## 在庫7300トンに対応



来年の目標生産量を決めた沖縄県もずく養殖業振興協議会臨時総会

【那覇】沖縄県もずく養殖業振興協議会（会長・下地敏彦県漁連会長）は11月28日、那覇市の県水産会館で臨時総会を開き、2009年産本モズクの目標生産量を1万トンに決めた。前年の目標生産量1万5000トンからさらに大幅に減産。糸モズクは1200トンとした。

沖縄県の本モズク生産能力は2万トンを突破している。国内の需要量は、消費環境により変動はあるものの、約1万5000トンとみられている。

06年の本モズク生産は1万9833トン、07年は2万1111トンだった。この2年連続の高水準生産量が今に響いている格好だ。供給過剰と消費の冷え込みが影響し、相場は下落。07年の原藻価格は

1キ当たり1000円と低迷、08年は目標を1万5000トンに抑制せざるを

得ない状況となった。今年の生産は1万4571トンだったが、原藻価格は依然低迷し、さらに下落している状況。  
2年連続の減産を打ち出したのは消費環境の厳しさとともに、7300

みH1201面1 来年目標生産量1万トンに大減産

とみられる在庫量。これは同協議会の調査から推計したもので、この調査結果を踏まえ、需給バランス調整のためには大幅減産はやむを得ないと判断したものだ。

下地会長は「われわれにとつて7300トンというのは非常に重たい在庫量だ。決まったことを強い意志で実行しなければ、来期のモズク価格はますます下がっていく。今が正念場だ。一緒にな

ってこの課題に取り組んでいただきたい」と話し、目標生産量を各漁協が順守するよう呼びかけた。